

マルコの福音書 第15章 34節

「そして、三時に、イエスは大声で、『エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ』と呼ばれた。それは訳すと『わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか』という意味である。」

十字架上で呼ばれた声は、父なる神が、その独り子イエスを捨てたことへの叫びである。親子の情愛をはるかに超えた父なる神と御子イエスの絆が絶たれたときの叫びである。地上でこれ以上の断絶があり得ないところでの叫びである。

だいぶ前にイスラエルを訪ね、エルサレムの城壁外にあるゴルゴタの丘と称されるところを訪問したことがある。そこには世界から多くの観光客、信仰者がみえていた。人の多さで、丘は騒然としていた記憶がある。その丘では、『エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ』は聞こえてはこなかった。人のざわめきだけがあった。

唯一、聞こえてくるのは、聖書からである。聖書ではイエスの御声が叫びとなつて聞こえている。この、『エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ』の叫びは、時や空間を超えて万民に届いている叫びである。万民のための絶叫である。万民に代わって、叫びのすべてを引き受けた叫びである。この叫びを聴き、信じた者だれでも、もはや同じ叫びをすることがなくなる御声である。万民のための十字架の叫びである。

2025年3月12日